

生田遺跡第8次発掘調査

生田遺跡は生田神社の西側、東西約 400m、南北約 300m の範囲に広がる集落遺跡です。かつて存在した鯉川などより形成された、狭い扇状地の扇央付近に立地します。

昭和 62 年の発見後、7 次にわたる調査により、古墳時代を中心とする縄文時代から明治時代までの遺構・遺物を確認しました。なかでも今回の調査地南側で実施した第 4 次調査では、縄文時代中期～後期（5,000～3,000 年前）の多量の土器や石器とともに、土偶やヒスイ製小玉といった市内では希少な遺物が出土しました。また、弥生時代中期（1,800 年前）の竪穴建物や方形周溝墓、古墳時代中期～後期（1,500～1,600 年前）の竪穴建物、平安時代末～鎌倉時代頃（約 800 年前）の掘立柱建物や井戸なども見つかっています。

今回見つかった主な遺構

耕作痕 -土地形状の変遷-

調査区の中央で明治時代に築かれた溝（暗渠）を検出しました。この溝を境に南下がりの段になっています。この段の東側では並行して平安～鎌倉時代頃と江戸時代と考えられる耕作に伴

う溝が見つかっています。およそ 800 年の間、ほとんど同じ形状の土地であったと想像されま

平安時代～鎌倉時代

水田耕作に伴う溝のほかに柱穴を検出しており、掘立柱建物の一部を確認しています。また中国製の青磁・白磁を投棄した土坑などもみつ

古墳時代

一辺 6m ほどの平面方形の竪穴建物を 1 棟確認しました。深さはわずかに 10 cm ほどが残るだけで、しかも後世の攪乱で柱穴など詳細は明らかではありません。また、北から南に流れる溝は長さ約 8m を検出しました。ともに古墳時代後期の土器が出土しています。

このほか調査区の北西側では、掘立柱建物に復元できるものを含む、多数の柱穴を検出しています。

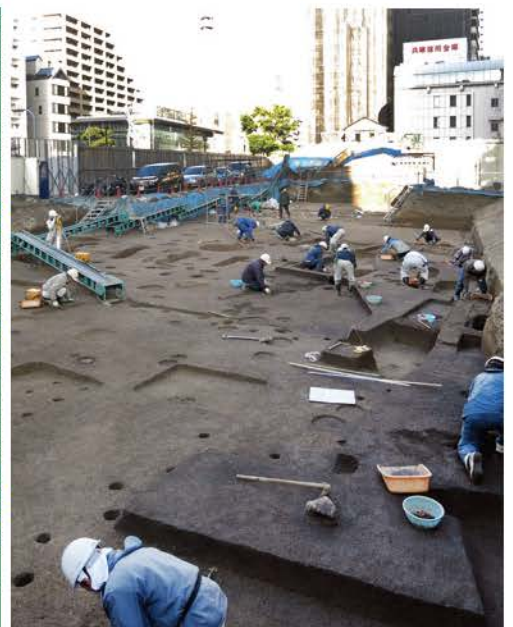
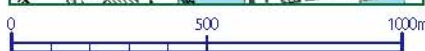
弥生時代

南北方向の溝 1 条が見つかったほか、調査区南西部で幅 1.5m 前後の並行する土坑（穴）4 基を検出しています。ともに弥生時代中期と考えられる土器が出土しています。



1885 (明治18)年測量 仮製地形図

発掘調査地点位置図



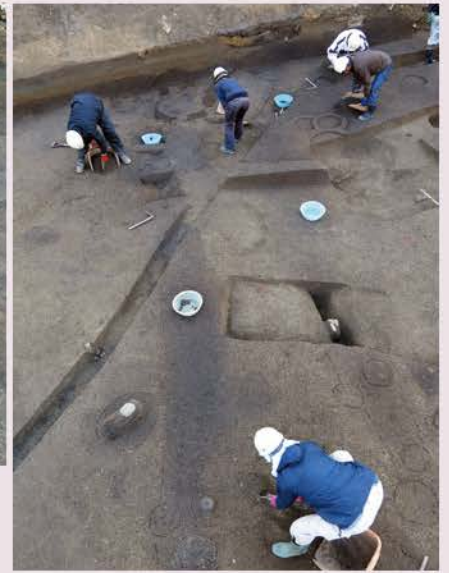
発掘調査風景



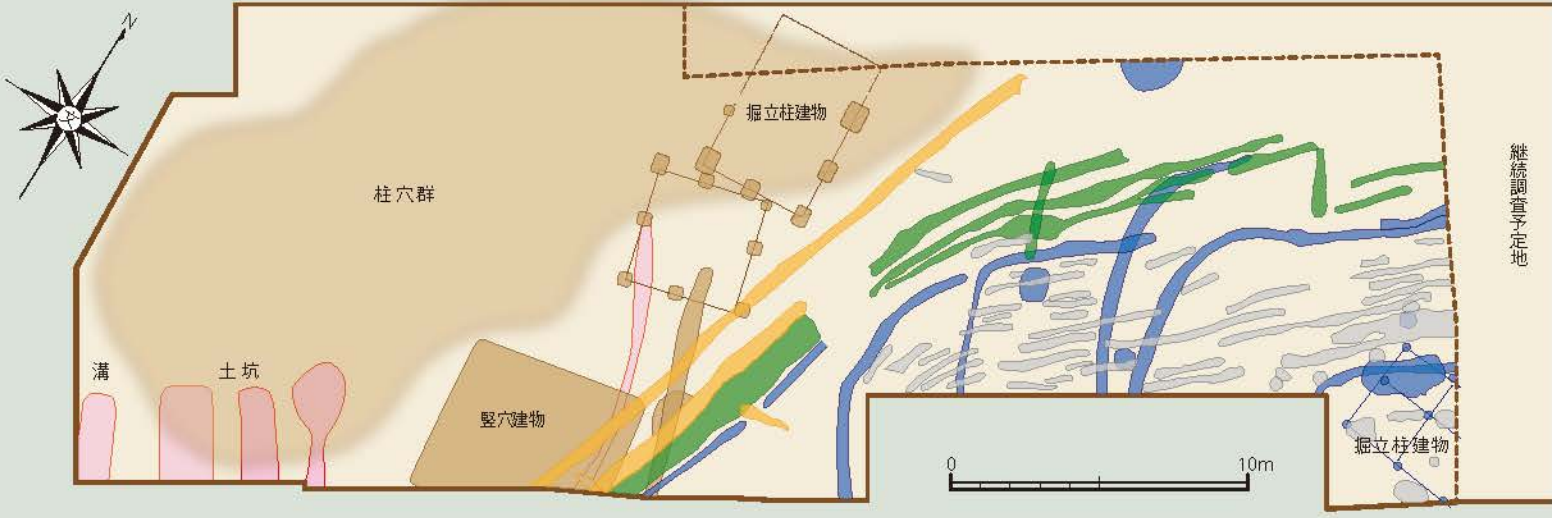
耕作痕（黒い筋状の溝）



中世の耕作痕



古墳時代の溝



遺構平面図



古墳時代の竪穴建物



古墳時代の柱穴群



弥生時代の溝や土坑